

(別紙)

令和7年度(令和6年度からの繰越分)障害福祉分野の介護テクノロジー導入支援事業
(介護ロボット等導入支援事業)事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 埼玉県

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンショウトクカイ
法人名	社会福祉法人聖徳会
フリガナ	グループホーム ルーチェ
事業所名	グループホーム ルーチェ
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
グループホーム	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
11.0 人	

(1)主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☐ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☐ 見守り・コミュニケーション ☐ 機能訓練支援 ☐ 栄養管理支援

機器名(導入台数) 眠りSCAN(4台)

(2)ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	4 人	360 件	4,320 件	10 分	2,880 人時間	180 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			360 件	4,320 件	10 分	2,880 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間訪室回数ひと月当たり 1日3回利用者4人×30⇒360件

<※2>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D.1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E(A×C×D)	1人あたり 業務時間 (C×D÷A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	4 行動上の問題への対応(※2)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	4 人	240 件	2,880 件	10 分	1,920 人時間	120 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	8 見守り機器の使用・確認			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			240 件	2,880 件	10 分	1,920 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B.ひと月当たり発生件数の算出方法

夜間訪室回数ひと月当たり 1日2回利用者4人×30⇒240件

<※4>D.1件当たりの平均処理時間の算出方法

処理にかかった時間の合計÷発生件数

年間業務時間数想定削減率(%)

33.3%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

導入前は利用者の状況に関わらず居室を定期巡回し睡眠状況を確認していたが、眠りSCAN導入後は利用者状況をPCモニターやモバイル端末で一括見守りが可能となった。これにより必要なタイミングを中心とした訪室に変更し無駄な動きを避けることができたことから、夜勤者訪室業務が約33.3%の削減につながった。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

眠りSCAN導入後導入により利用者の睡眠状態をモニターで把握できるようになり、職員の訪室回数を減らすことができた。それにより夜勤職員の業務量軽減はもちろんのこと、訪室時の無駄な扉の開閉がなくなったため利用者の睡眠の質の向上につながった。また、離床通知の活用により職員が移動介助のタイミングを捉えることができるため、利用者の転倒リスクの軽減にもつながっている。さらには、利用者の呼吸・心拍のデータ蓄積にて、体調変化にいち早く気づき、医療に繋げることも可能となった。これらが夜間帯業務の効率化および心理的不安軽減に繋がり、職員から好評を得ている。

(5)今後の課題

日中活動と睡眠の相関関係を知り、活動内容が睡眠に与える影響を理解し、日中活動プログラムの改善につなげる。
メンタル不調者に陥りやすい利用者に関しては、睡眠状況から早めに医療との連携を取り、入院リスク軽減につなげる。

(6)気づき等について

・決まった時間に行っていた訪室が、利用者の眠りの妨げにつながることがあると判明した。ようやく眠りについた利用者や、眠りが浅い利用者などはドアの開閉音だけでも起きてしまうので、無駄な訪室を避ける重要性に気付くことができた。
・眠りSCANの離床時間が長めになっている場合、トイレ内での居眠りや、ベッドに座ったまま横にならずにうつらうつらしている利用者の状況が判明した。離床状況時間帯の確認にも有効であることに気付くことができた。
・居室変更後に落ち着きがなかった利用者が、眠りSCANのデータから徐々に睡眠が安定してきたことを確認でき、今では問題なく生活ができている。ご本人・ご家族ともに不安な時期もあったが、科学的なデータをもとに自信を持つことができた。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円／月)	
職員の賃上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。